

第 2 回 奈良市「持続可能な観光」検討懇話会	
開催日時	令和 5 年 1 2 月 1 日 (金) 午前 1 0 時から 1 2 時まで
開催場所	奈良市役所北棟 6 階 6 0 2 会議室
参加者	青木 真郎 [(一社) サステナビリティ・コーディネーター協会] 澤柳 正子 [(株) リクルート ジャらんリサーチセンター] 下谷 幸司 [奈良市旅館・ホテル組合] 高橋 一 [(公社) 奈良市観光協会] 原田 隆太 [奈良ホテル] 二神 真美 [名城大学] 本保 芳明 [国連世界観光機関 (UNWTO) 駐日事務所] 峯川 郁朗 [奈良商工会議所] 大和 里美 [奈良県立大学] ※50 音順、敬称略
担当課	観光経済部観光戦略課
開催形態	(非公開の理由) 情報公開条例第 7 条第 3 号
	具体的な非公開の理由等 企業の経営等に関わる情報もあることから、公にすることにより利益を害する可能性があるため。また、率直な意見交換が妨げられる可能性があるため。
意見を求める内容	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良市の課題分析について ・持続可能な観光の目標について
概要	<p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーバーツーリズムを念頭に置いて議論を進めるべき。 ・春や秋は、自家用車や観光バス、修学旅行のバスなどがたくさん来ることから、交通渋滞が起こり、排気ガスも出るので環境に悪い。 いかにして安全に観光客をうまく観光地の方に流すかという方法を考えていけないといけないと思う。 ・観光分野における CO2 やごみの排出量等を把握できていない (先進地域でもできていないところが多い)。 奈良市として、奈良の観光関係として、CO2 の量をきちんと把握することや、ごみの量を極力モニタリングし、減らせるものを減らして、観光地を綺麗にするなど、そういうところをある程度リソースを割いてまでやるかという合意が一つのポイントである。 ・奈良市での観光というところで、一定のお客様やツアーリストを選ぶ、観光に携わる人にちゃんと教育をするというような姿勢をメッセージとして出していくということが大事なのではないか。

- ・目指すべきところ、ゴールが見えないと、どちら向いて走っていいかわからないと思うので、目指すべきところと、それに対する基準というものを数値化して、具体的にその達成度がわかるような形に整備していくことが必要だと思う。
- ・サステイナブルな取組を事業者がやることで、よりプラスアルファの利益が得られる等、モチベーションになるような、お題目や計画、指針が示されると観光関連事業者もやりやすいのではないかな。
- ・JSTS-Dにおけるマネジメントに関する項目ができていない。
マネジメント組織を何らかの形で構築して、誰かが中心となって、コーディネートする人材を育成することが必要。そこがないとやることがバラバラになって、結局全体として体系的に取り組んだことにならないと思う。
- ・持続可能な観光に関わる人材育成が必要。事業者向けの説明会や研修等も実施すべき。
- ・社会・文化的持続可能性の観点として、市民の観光に関する理解を得ることはとても重要である。
京都市で、観光が市民にもたらす効果を見える化して、経済的な直接効果、間接効果を分かりやすく説明したリーフレットを作成している。
具体的な数値でどのくらいの雇用が満たされているか、さらにそういったお金が神社や文化遺産をどう支えているかなどを示したうえで、今後、市民の方が観光を通じてその土地に住むことに誇りを持つ割合など、2つの KPI を示している。
そのような市民への働きかけはすごく有用だと思う。

【今後の方向性】

- ・持続可能な観光に向けた市の取組方針を作るべき。
- ・観光地としてのブランド構築のために、市内の観光事業者にも、認証取得や研修を推進していくべき。
- ・経済的持続可能な観光の観点から、消費額を増加させるための方策についても、深めるべき。
- ・環境の負荷の少ない観光地となるべく、温室効果ガス廃棄量の削減を目指すべき。